

地域の農業について語り合う地域座談会（令和7年度まとめ）

1 実施日時

令和7年8月25日（月） 17:35～19:20

2 参加者

農業委員，農地最適化推進委員，認定農業者，土地改良区関係者，多面的機能活動組織関係者，村内集落転作実践委員会等，JA関係者，各生産組合員，茨城県農業経営課職員，茨城県県央農林事務所職員，茨城県県北農林事務所職員，JA職員，東海村職員（事務局）

計54名

【座談会の様子】





3 内容

(1) グループワーク

- ・『座談会』のポイントを元に各グループで話し合いを行った。

『座談会』のポイント

これまでの経過

<令和5年度～令和6年度>
各エリアでの座談会や担い手ミーティング、セミナー等を実施

皆さんの「思い」や「考え」等を踏まえて

↓

『東海村地域計画
【計画書+目標地図】』
を令和7年3月に策定

協議の場 ← 繋がる場

本日のポイント

★本で行うことは？

- ・地域計画（目標地図）実現に向けた話し合い

★どんなことを話し合うの？

- ①集積、集約を進めるうえでの課題や問題点は？
- ②地域、各関係者ごとの役割、自分ができることは？
- ③自分の地域の良い所、担い手は誰？

本日のゴールは、...
⇒地域の皆様の想いの共有

今後の予定

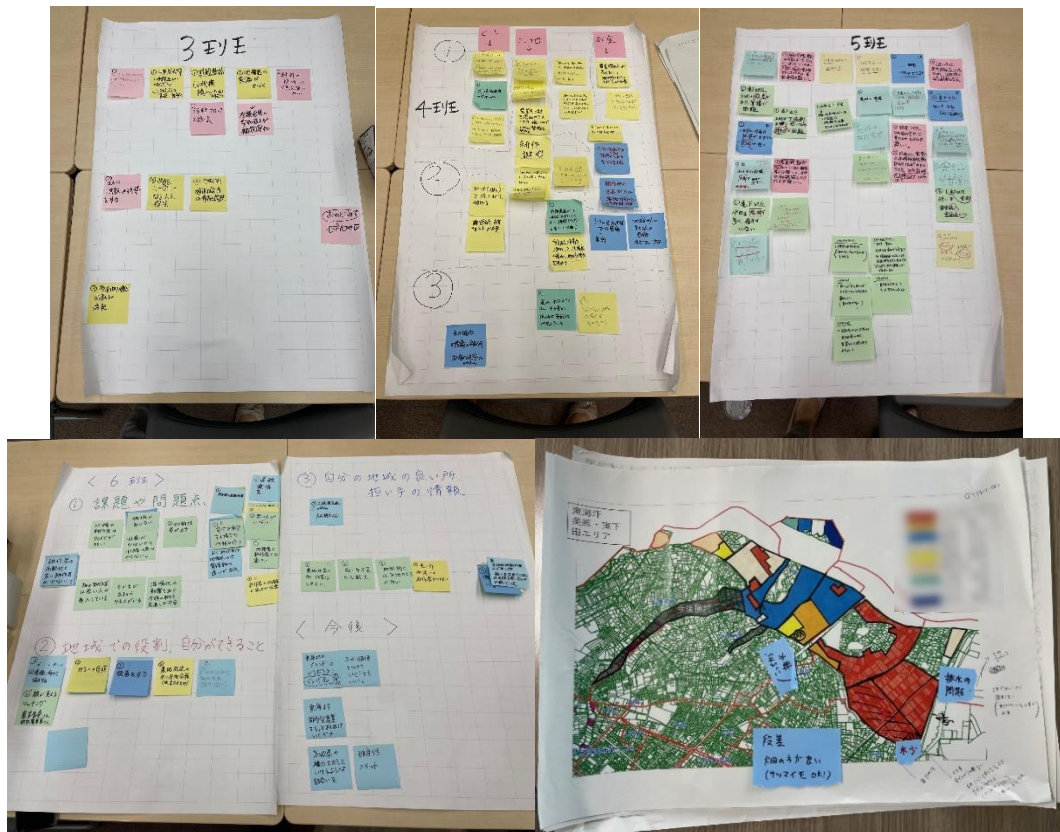
- 各エリアの中心的地担い手を集めた部会等の開催
- 地域計画検討会での計画の進捗管理
- 定期的なセミナーや座談会の実施

これまでの『座談会』で挙がった多くの課題のうち 主な(大きな)事項

- 地権者へのアプローチ、地権者の理解等を深めていかなければならない。
- 空いた農地があった場合、耕作者への情報提供や耕作者決りをどんな仕組みで行っていくか。
- 耕作条件や長年育んできた土づくりへの“想い”等から、農地の交換は簡単には行えない。
- 新規の就農者や後継者に対する支援のネットワーク/仕組み作りが必要。
- 施設の老朽化に伴う基盤整備、効率化を目指した大区画化等の整備。

- ・ 発表の様子、各班の模造紙





・各グループで出た意見

①集積、集約を進めるうえでの課題や問題点

- ・ 土地の問題として、基盤整備を行わないと続けられない。地力の差や段差がある。区画を大きくしていかないと続けにくい。集積・集約にあたって、所有者の同意をどう集めていくかが問題。(1班)
- ・ 地権者との面識がなく先に進めない。耕作者同士のネットワークがない。相続が発生するとより誰の土地かわからない。後継者がいない。対策として法人化があるが法人組織が少ない。畑は集約しにくい。65歳定年で若い人が就農しない。(2班)
- ・ 中間管理事業の事務処理が煩雑であり簡素化してほしい。基盤整備において小規模な隣の畦畔ブロックは誰が除去するのか。地権者の意識が希薄。座談会に参加する人が固定化している。(3班)
- ・ 人間関係の問題として、耕作者と土地所有者の問題、新規就農者の受入、後継者の確保、役員のなり手がいないなど、地域への関心が薄くなっている。土地の問題として、区画が小さい、耕作放棄地増えている、水田が深く耕作作業ができない。金の問題として、水田は特に機械が高額である。(4班)
- ・ 水の問題として、排水がよくない、水が少ない、工事が必要、市街地にもかかる問題、設備も老朽化している。地形の問題として、傾斜があり、南側の田は畑の方が適しているかもしれない。(現状はさつまいもを作っている田んぼもある。)(5班)

- ・ 耕作者が高齢化し少ない。新規就農者には投資が大きい。さつまいもは干し芋があるが温暖化の影響は不安。同じ貸し手でも貸借料が違うなど不平等であり、中間管理機構もまだ機能しきれていない。(6班)

②地域、各関係者ごとの役割、自分ができること

- ・ JAとしては現在の状況を提供することはできる。県としては活用できる事業情報を提供しサポートできる。村としては話し合いの場・機会を提供できる。(1班)
- ・ 個人的に集約を進める予定である。農業体験の場を作り後継者を作っていく。ママさんたちに働いてもらいお客様としても来てもらう。農業者同士の信頼をつくりながら集約していく。農家同士の取次や事務処理はできる。(2班)
- ・ JAとしては情報提供や指導。土地改良区としては地権者問題に対して地権者との取次や情報提供・周知など。(3班)
- ・ 技術的支援・サポート，農地の幹旋，農業者・非農業者を地域巻き込み活動，土地を集約する，小さい区画はそのまま地域を巻き込んだ耕作地以外で活用。(4班)
- ・ 自分で維持管理するところ以外のところの問題がある。(5班)
- ・ 役員に自分からなる。草刈りに参加する。顔が見えるマッチングを行う。(6班)

③自分の地域の良い所、担い手

- ・ 畑と水田のバランスはよい。畑はかんしょとして使いたいところが多いが，水田は放棄地が出てきている。(1班)
- ・ 中心地から離れているので農地を守りやすい，耕作放棄地が少ない。(2班)
- ・ 坏地区において集積・集約が進んだ際に維持管理を地域でも担っていく。水利がよいところをモデル地区として進めていく。(3班)
- ・ 農地（水田）が多く水も豊かだが，高齢化は進んでいる。地域の当事者が話し合いに参加している。(4班)
- ・ 平坦で耕作者が限られているため集約がしやすい。(5班)
- ・ 大規模区画がある。息子が農業をやってもよいと言っている人もいる。(6班)